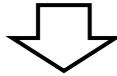


令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立熊野高等学校	対象となる主な学年	第1学年
取組事例名	「スターティングウィーク」		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像

生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学したばかりで高校生活に求められるルールやマナー、学習内容や学習方法を理解していない。</li> <li>・様々な中学校から入学し、人間関係の形成が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活を送るための規則正しい生活習慣を身に付けた生徒</li> <li>・全校や学年の一員としての自覚を持ち、集団における自己の役割を踏まえた行動をとる生徒</li> <li>・高校生活を通して、言語化する力、チャレンジ精神、コミュニケーション力、感性を育てようとする生徒</li> </ul>



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活に必要なルールや公衆道徳を知ること、高校での授業の仕方や予習・復習の方法を理解することを通して、望ましい集団活動の在り方や家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> <li>・新しい学校生活を充実させる方法を考えることを通して、将来や人間としての生き方について考え、判断する能力を育成する。</li> <li>・新しい学校生活の生活環境の中で、人間的な触れ合いや信頼関係を深め、互いに協力して集団生活を送ろうとする姿勢を育成する。</li> </ul>
取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等
<p>スターティングウィークでは、入学翌日から6日間にわたり高校生活に求められるルールやマナー、学習内容を学ぶ。また、学習活動の中での交流を深め、互いを理解してより良い人間関係を形成する機会とする。</p> <p>〈導入〉</p> <p>スターティングウィークの目的を理解し見通しを立ててから取り組ませることを意図して、6日間の学習活動で使用するプリント全てをまとめた冊子を最初に配付した。生徒は熱心に目を通し、学習内容を理解した。</p> <p>〈取組内容① 高校生活を知る〉</p> <p>集団生活に必要なルールや公衆道徳を知ること、高校での授業の仕方や予習・復習の方法を理解することを意図して、分掌や教科からの説明を行った。また、交通安全教室を行い1年1学期に多い交通事故の防止、コグトレを実施して認知機能や考える力を育てる取組も行った。その際、学んだことをまとめる時間を多く取ることで、学習を深化させる工夫を行った。</p> <p>〈取組内容② 講話〉</p> <p>学校生活を充実させる方法を考えることを意図して、校長、学年主任が講話を行った。また、多様な考え方を知り視野を広げるため、学年団の教員全員が話をする機会も設けた。講話の中で心に残った言葉を冊子に書き留めて考えたことをまとめる時間を設定することにより、生徒が今後の学校生活の中でいつでも振りかえられるよう工夫した。</p> <p>〈取組内容③ 人間関係づくり〉</p> <p>交流を通して互いに協力して集団生活を送ろうとする姿勢を育成することを意図して、部活動オリエンテーション、対面式等在校生同士が触れ合う時間を設けた。その際、複数の先輩から高校生活を送る上での具体的なアドバイスを伝える時間や学年全体で協力して一つのことをなし遂げる機会を設け、主体的に活動できる時間となるよう工夫した。</p>

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

<p>○実施後1ヶ月間において欠席ゼロの生徒の割合が73.1%、遅刻は90.8%、1学期終業式までに10日以上の欠席者は3人、遅刻者が2人であったこと、生徒質問紙調査において「学校でみんなと一緒に活動するのが楽しいと感じています。」という項目に対して91.5%の生徒が肯定的回答をしていることから、順調に高校生活がスタートできた生徒が多いと考える。</p> <p>●2学期以降に遅刻・欠席や問題行動が増加しており、スターティングウィークで学んだことや決意をいかに持続させていくかが課題である。事後指導の一つとして、年度末にスターティングウィークで理解したことや考えたことをふりかえる機会を設けている。年度当初に抱いた高校生活への意欲を再確認させ、新たな決意をする機会とさせたい。</p>
---